



子どもたちへの支援を続ける
市内在住の会社員 河村 正剛さん

1人でも多くの子に支援が届くように

支援をはじめて20年になります。個人での活動に限界を感じ、素顔を公表しました。それが今回の取り組みにつながったことを本当にうれしく思っています。子どもたちには周りで見守ってくれる大人がいるということを感じ、安心してほしい。前橋市で始まった取り組みが県や国へと広がり、1人でも多くの子がスムーズに自立できるよう願っています。

前橋市ではこれらの課題に対し、進学や就職の夢を実現し自立を促すための支援を検討。タイガーマスク運動支援事業として、まずは市内の児童養護施設入所児・里親委託児などで本年度以降に退所する子どもたち（本年度は7人の見込み）を対象にサポートを始める。

現在市内の施設などで暮らす子どもは約160人。そのうち、児童養護施設などから学校を卒業して社会に巣立っていく子どもに対し、自立のための資金のうち公的支援を除き不足する費用（1人当たり15万円）を支援する。また、企業や大学との連携で運転免許の取得や大学などへ

彼らの夢の実現のために



特集01

タイガーマスク運動支援事業 市民の善意が未来をつくる

問 政策推進課 ☎ 027-898-6003

ランドセルから始まった未来を育てるためのアクション。寄付文化は根付かないといわれてきた日本で巻き起こったタイガーマスク運動は、前橋から生まれた。前橋の未来を担う子どもたちへ、私たちにできることはたくさんある。他者を思いやる気持ちや支え合い、助け合う心。一人一人の心に芽吹いた善意が明日の前橋をつくっていく。

前橋に芽吹く未来の種

の進学支援の拡充を目指すほか、財源の一部としてふるさと納税での寄付の活用も検討。行政や個人の枠組みを超え、前橋の未来を担う子どもたちを社会全体で育てる取り組みを多方面で進めていく。



児童養護施設地行園
園長 須田 昭司さん

安心して社会に出てほしい

さまざまな理由で親元を離れる子どもたちへは手厚い養育を受けさせたいですね。施設では生活に困ることはほとんどないですが、退所後の自立支援は不十分です。今回の市の事業はそんな子どもたちの社会的自立のためにとってもありがたいもの。子どもたちにはできるだけ安心して巣立ってほしいです。

自分のやりたいこと諦めずに済むように

中3の時から看護師になりたいという夢がありました。高校時代はバイトと部活、生徒会の両立で正直大変でした。受験前は職員さんが支援金を調べるなど、たくさん応援してくれました。おかげで今、夢を実現できそうです。今回の事業が今までの支援に加わり、これから退所する子どもたちが負担を感じず自分のやりたいことにチャレンジできるとういいますね。



3年前に施設を退所し看護師を目指す
山野 みどりさん(仮名)

全国に広がった善意の輪

7年前のクリスマスに県中央児童相談所（野中町）へ届けられたランドセル。差出人として記された名は伊達直人。漫画「タイガーマスク」の主人公で、自らが育った孤児院へ素性を隠して寄付をする人物と同名であることから、タイガーマスク運動と呼ばれるこの活動は、その後全国に広がった。そして昨年12月、伊達直人は、ついにその素顔を明かした。両親のいない環境で育った河村さん

伊達直人の名で届けられたランドセルの贈り物が共感を呼び、全国に広がったタイガーマスク運動。最初の寄付者で市内在住の会社員・河村正剛さんの活動を受け、前橋市では児童養護施設などの退所者への社会的自立を支援するタイガーマスク運動支援事業を実施します。

ん。同じ境遇の子どもたちのため、昨年から今年にかけて市役所を訪問。山本市長と意見交換を重ね、彼らへの支援を訴えた。

本当に支援が必要なのは退所後

さまざまな理由から施設で暮らす子どもたち。彼らが施設で生活できるのは基本的には高校卒業まで。ランドセルなど、入所中の物的な支援ももちろん大切だが、本当に支援が必要となるのは卒業し、施設を退所した後だ。住む所を決めるときに保証人に困ったり、運転免許取得のためにアルバイトをする必要があったりすること。進学を希望するならば学費の工面などが必要だ。新しい生活のためのハードルは高く、夢を諦めざるを得ないこともある。

